

信仰によってアブラハムは

2025年1月5日

創世記 11章27節～12章9節
ヘブル書 11章8～10節

序：アダム ～ ノア ～ アブラハム ～ イサク～ヤコブ

人類 イスラエルが選びの民とされる

イスラエルの父祖はアブラハム（アブラム）

I. ウルを出立してカナン地向かう

テラ（父）

アブラム（息子）－ サライ（妻） 二人の間に子はいない

ロト（孫）・・・アブラムの甥

II. 途中のハランまで来て、そこに住む

父テラはその地で死ぬ（205才）

III. アブラムへの神の約束（命令）

(1)地縁 血縁を絶って、主の示す地に行け

住み慣れた土地

馴染み深い親しい親族&友人

月神を拝む偶像礼拝（ウルでは行われていた） ⇒ まことの神に信従

(2)従うなら祝福する

大いなる国民とし、彼の名を偉大なものとする

神がともにいて、どこにおいても守る

アブラムによって、すべての部族・諸国民が祝福される

IV. アブラムの信仰、従順、服従

告げられた通り出かけた 同行者は妻と甥 75才（175年の生涯）

V. カナンの地に入る（彼の子孫に与えられる地との確約を神から受ける）

シェケム、ベテルとアイの間、ネゲブへと移動（主のための祭壇を築く）

VI. 約束された地であったが、定住せず、天幕生活（寄留者、他国人）

子イサク、孫ヤコブも同様

VII. 目指し待ち望んでいたのは、天の永遠の御国（＝新しいエルサレム）

神が設計し、建設される堅い基礎の上に建てられた都

VIII. 結び

(1)信仰は見ずに信じて従うこと（約束された方、命じられた方は真実な方）

(2)神に従うなら、今まで慣れ親しんできた場所、人々、習慣、価値観などと決別して、新しくリセットが必要

(3)神はただ従えと命じられるのではなく、信じ従う者を大いに祝福し、報いてくださる

(4)神に従うなら、不承不承、いやいやながらではなく、信頼して喜んで従うこと
従うか従わないか、喜んで進んでそうするかしないかは各自の選択

(5)祝福されるのは、その人だけでなく、家族や周囲の人々、ひいては世界全体にまで及んでいく。私というひとりの神のこどもの従順の影響も測り知れない

